

「木」の素晴らしさを発信

名古屋木材株式会社

代表取締役社長 にわ こうたろう 丹羽 耕太郎 氏



元銀行マン

私はもともと銀行マンでした。長年の銀行員生活では、辞令一枚でいろいろな部門に行きました。その経験から「自分の与えられた場所でベストを尽くせばなんとかなる」ということを学びました。そして、ある日、突然頭取から「名古屋木材に行きなさい」と言われてここへ来ました。

私が社長に就任した時には、当社には明文化された経営理念がありませんでした。そこで、考えに考えて経営理念を作りました。「私たちは《自然からの最高の贈り物》である木材を『極め、見分け、生かし』循環型社会形成に貢献します」というものです。石油をはじめとする有限な資源を使った商品を、循環資源である木を使った商品に転換することが重要なのです。

私の子ども時代のことを考えてみると、いろいろな物が木で

できていた。それを、壊れにくいとか耐久性が高いとかでコンクリートや鉄に替え、プラスチックに替えた。プラスチックは使い終わってもプラスチックのままですが、木は使い終わったら土に還ります。そういう社会になるように、当社は考えていくぞ、ということでした。

そのための技術はないかと探し、岐阜大学の先生と開発をすることにしました。それで開発したのが圧縮木材です。そこから物語が始まったのです。

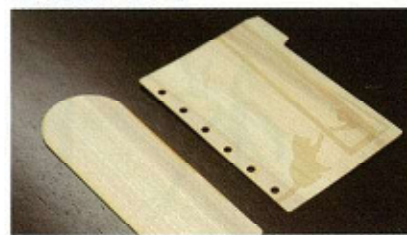
圧縮木材とは

圧縮木材というのは、木材を特殊な方法で圧縮したものです。木材の組織は中空になっているので、圧縮することで体積が小さくなり、密度が高くなります。そして、木はもともと油分を含んでいますから、それが表面に出てきて、他の物とは代え難い感触になります。この圧縮木材を開発するのに4年近くかかりました。

この圧縮木材の特徴は、曲げ強度、引張強度など強度が増すとともに、表面硬度が増大してスズのような軽柔な木材でも、軟鉄や銅に匹敵する硬さになります。薬品を使わず、水と熱のみで作ることができるため、人にも地球にも優しい素材といえます。これで、様々なものの製作に挑戦

しています。普通に考えると、木を使って作るのは、家の部材や家具です。これは誰でも思いつきます。そして、そこで新しい発想があっても、同業他社がすぐに追いつくでしょう。ただ、私達が今やっていることなら、簡単なことでは追いつけません。すぐに真似できない分野で仕事をするにはどうしたらいいかを考えたから、ここにたどり着いたのです。

それには頭を使わなくてはいけません。何をしたらいいのか、ということをいつも必死で考えています。アイデアはいろいろあります。試作もたくさんしていませんからね。



また、産学連携の試みとして、愛知淑徳大学と昨年の11月に、異業種交流会「メッセナゴヤ2014」にてブースを出展しました。このプロジェクトのために半年ほど打合せを重ね、形を残すことができました。共同開発にて商品化された「しおり」については、開催期間中に増産するほどの好評を得たのですよ。



木製のゴルフパター

木製のゴルフパター「ペンタパターウッディー」もこの技術で作った製品です。変わった形をしています。英国ゴルフ協会(R&A)のルールに適合しているので、世界中の公式競技で使うこともできます。実際にセントアンドリュースの近くのお店でも販売しています。

五角形は面内のどの点をとっても各頂点からの距離の総和が等しくなります。この五角形の幾何学的な特徴をパターに応用しました。この面のどこに当たってもスイートスポットになるのです。狙った所に転がりやすいので、初心者の方にお薦めです。

ゴルフのパターを作るといっても意外だと思うでしょうが、これも人の縁ですね。ある時、アルミでこの形のパターを作った方と知り合いました。アルミで作ったこのパター



を木で作ることもできるのではないか、という話になりまして、それは面白いな、と思って早速作ってみました。そしてこれが完成する頃に、今度はセントアンドリュースのゴルフ場へ20数年通って、セントアンドリュースの写真集まで作った方と知り合いました。その方に「これだけの物を作ったのなら、セントアンドリュースへ行きなさい」と言われました。そう言われても、人脈も何もありませんし、どうしたらいいかわかりません。しかし、その方が、連れて行ってくれました。セントアンドリュース最大のゴルフショップへ行って、店に紹介してもらい、販売してもらうことが決まりました。オールドコース18番コース付近のゴルフショップでも販売されています。そういう面白いことをやっています。人のやらないことをやりたいですね。

いつまでも新しいことを

そういう意味で「木材コンビ

二」も面白い試みだと思います。プロの人向けですが。なぜそういうことを始めたかという、ホームセンターではあまり良い木を手に入れることができないからです。それで良質な木を手に入れやすくするために、木材コンビ「A'zen(エイゼン)館」を始めたのです。この良さは、見る人が見ればすぐにわかると思います。そうして口コミで広がっていくのです。

私がいつも言っているのは「誠実を物語る企業であれ」ということ、そして、本物にこだわりなさいということ。きっちりと、まともな物を、嘘をつかずに正直に売る。それが消費者のためでもあるのです。

社員にはどこもやらないことをやれ、といつも言っています。そして、次々と新しいことにチャレンジして、人の役に立つことをしなさい。そうしたら、すごく楽しい人生になるだろう、というわけです。ありとあらゆることに興味をもたなくてはなりません。人間は好奇心を持ち続けられれば、ボケないそうです。死ぬまで元気でいたいですね。

代表取締役社長 丹羽 耕太郎 氏

名古屋木材株式会社

本 社 名古屋市中川区山王二丁目6番41号

TEL(052)321-1526(代表)

FAX(052)332-5457

<http://www.meimoku.co.jp>

営業種目

木材・合板・建材・住宅機器ならびに

産業資材の販売

建築請負およびウッドデッキ施工

